

## マツモトキヨシとココカラファインの経営統合について

1220498 玉置瑞希

指導教員 肥前洋一

### ・研究背景

マスクや消毒液、うがい薬を扱うドラッグストア業界はコロナ禍にあっても成長を続けているが、マツモトキヨシ、ココカラファイン、サンドラッグは減収減益した。このうちマツモトキヨシとココカラファインの2社が経営統合することを発表した。

本論文では、経営統合の中でもマツモトキヨシとココカラファインの統合である水平統合に着目する。水平統合とは、同種の分野、事業範囲の拡大をすることである。期待される効果として、マーケットシェアの拡大、製品ラインナップの充実、販売数増による購買力の向上が挙げられる。

### ・研究目的

水平統合がうまくいかない条件を先行研究から見出した上で、統合後のマツモトキヨシとココカラファインは統合前の2社の単純合算より業績を伸ばすことが出来るのかを予測する。

### ・調査・分析方法

#### ①統合阻害要因の特定

先行研究から水平統合が上手くいかない条件を見出す。

#### ②応用可能性の確認

一ノ宮（2013）は、経営統合が白紙撤回となる7つの要因を見出した。それらを統合後の業績の予測に応用してよいのかを確認するために、すでに水平統合された企業が阻害要因を持っていたか、現在の経営は良好かを調査する。

#### ③応用

7つの統合阻害要因のうち、いくつがマツモトキヨシとココカラファインに当てはまるのかを調査し、今後の業績を伸ばせるのか否かを予測する。

### ・調査結果

いずれの統合阻害要因もマツモトキヨシとココカラファインの統合には当てはまらない。

### ・考察・結論

経営統合後のマツモトキヨシとココカラファインは、単純合算よりも業績を伸ばすことが示唆される。一ノ宮（2013）では、統合に至るまでを分析している。しかし、そこでは影響力が統計学的に有意ではなかった残りの6つの要因（規模の格差・対等への固執、公平性・協力・信頼の欠如、人事・組織の違い、合理化の困難、利害関係者の反対、統合形態の問題）は、統合後の業績には影響を与える可能性がある。そのため、今後の課題として、それらも考慮して深く検討出来れば良いと考えている。<sup>i</sup>

---

<sup>i</sup>本論文の研究を進めるにあたり、一ノ宮士郎先生（専修大学経営学部）には、ご論文に関する質問にお答えいただきました。心より感謝申し上げます。